

第3 報酬、料金、契約金及び賞金の支払調書

1 提出する必要がある方

平成 25 年中に所得税法第 204 条第 1 項各号並びに所得税法第 174 条第 10 号及び租税特別措置法第 41 条の 20 に規定されている報酬、料金、契約金及び賞金（以下「報酬、料金等」といいます。）を支払った方です。

【報酬、料金、契約金及び賞金の支払調書提出範囲】

区 分	提 出 範 囲
(1) 外交員、集金人、電力量計の検針人及びプロボクサーの報酬、料金	同一人に対する平成 25 年中の支払金額の合計が 50 万円 を超えるもの
(2) バー、キャバレー等のホステス、バンケットホステス、コンパニオン等の報酬、料金	
(3) 広告宣伝のための賞金	
(4) 社会保険診療報酬支払基金が支払う診療報酬	同一人に対する平成 25 年中の支払金額の合計が 50 万円 を超えるもの。ただし、国立病院、公立病院、その他の公共法人等に支払うものは提出する必要はありません。
(5) 馬主が受ける競馬の賞金	平成 25 年中の 1 回の支払賞金額が 75 万円 を超える支払を受けた方に係るその年中のすべての支払金額
(6) プロ野球の選手などが受ける報酬及び契約金	同一人に対する平成 25 年中の支払金額の合計が 5 万円 を超えるもの
(7) (1)から(6)以外の報酬、料金等	

2 各欄の記入要領

記 載 欄 名	記 入 す べ き 事 項
① 支払を受ける者	<p>【住所（居所）又は所在地】欄には、支払調書を作成する日の現況による受給者の住所（居所）又は所在地を記入してください。</p> <p>また、【氏名又は名称】欄には、氏名（個人名）又は名称（法人名など）を記入し、単に屋号のみを記入することがないようにしてください。</p>
② 区分	<p>報酬、料金等の名称を、例えば、原稿料、印税、さし絵料、翻訳料、通訳料、脚本料、作曲料、講演料、教授料、著作権や工業所有権の使用料、放送謝金、映画・演劇の出演料、弁護士報酬、税理士報酬、社会保険労務士報酬、外交員報酬、ホステス等の報酬、契約金、広告宣伝のための賞金、競馬の賞金、診療報酬のように記入してください。</p> <p>なお、印税については、「書きおろし初版印税」と「その他の印税」との区分を記入してください。</p>
③ 細目	<p>次の区分により記載してください。</p> <p>① 印税 書籍名</p> <p>② 原稿料、さし絵料 支払回数</p> <p>③ 放送謝金、映画・演劇の俳優等の出演料 出演した映画、演劇の題名等</p> <p>④ 弁護士等の報酬、料金 関与した事件名等</p> <p>⑤ 広告宣伝のための賞金 賞金の名称等</p> <p>⑥ 教授・指導料 講義名等</p>
④ 支払金額	<p>平成 25 年中に支払の確定したものを記入してください。この場合、控除額以下であるなどのため源泉徴収されなかった報酬、料金等や未払の報酬、料金等についても記入漏れのないように注意してください。</p> <p>なお、支払調書の作成日現在で未払の金額がある場合は、各欄の上段に未払額を内書きしてください。</p>

報酬、料金、契約金及び賞金の支払調書

記載欄名	記入すべき事項
⑤ 源泉徴収税額	平成 25 年中に源泉徴収すべき所得税及び復興特別所得税の合計額を記入してください。この場合、支払調書の作成日現在で未払のものがあるため源泉徴収すべき所得税及び復興特別所得税を徴収していないときは、その未徴収税額を内書きしてください。 なお、災害により被害を受けたため、報酬、料金等に対する源泉所得税及び復興特別所得税の徴収の猶予を受けた税額がある場合には、その税額を含めずに記入してください。
⑥ (摘要)	① 診療報酬のうち、家族診療分についてはその金額を記入するとともに、金額の頭部に「家族」と記入してください。 ② 災害により被害を受けたため、報酬、料金等に対する源泉所得税及び復興特別所得税の徴収の猶予を受けた税額がある場合には、その税額を記入するとともに、金額の頭部に「災」と記入してください。 ③ 広告宣伝のための賞金が金銭以外のものである場合には、その旨とその種類等の明細を記載してください。 ④ 支払を受ける方が「源泉徴収の免除証明書」を提出した方である場合、その他法律上源泉徴収を要しない方である場合には、その旨を記載してください。
⑦ 支払者	報酬、料金等を支払った方の住所（居所）又は所在地、氏名又は名称及び電話番号を記載してください。

3 その他の注意事項

- (1) ①法人（人格のない社団等を含みます。）に支払われる報酬、料金等で源泉徴収の対象とならないもの、②支払金額が源泉徴収の限度額以下であるため源泉徴収をしていない報酬、料金等についても、提出範囲に該当するものはこの支払調書を提出しなければならないのでご注意ください。
- (2) 支払調書の作成日現在で未払のものがある場合には、源泉徴収すべき所得税及び復興特別所得税の合計額を見積りによって記入します。
なお、その後現実に徴収した所得税及び復興特別所得税の合計額がその見積税額と異なる場合は、当初提出した支払調書と同一内容のものを作成し、右上部余白に「無効」と赤書きします。また、正当税額を記入した支払調書を作成し、右上部余白に「訂正分」と赤書きし、「無効」のものと併せて提出してください（25 ページ「第9 法定調書の訂正・追加について」参照）。
- (3) 消費税等の取扱いについては、1 ページ「法定調書の提出範囲の金額基準の判定及び記入方法について」を参照してください。
- (4) 税務署へ提出する報酬、料金、契約金及び賞金の支払調書は、通常受給者のものについては1枚ですが、日本と情報交換の規定を有する租税条約等を締結している各国（27 ページ【日本と情報交換の規定を有する国の一覧】参照）に住所（居所）がある方の支払調書については、2枚提出してください。

4 記載例

平成25年分 報酬、料金、契約金及び賞金の支払調書				
支払を受ける者	住所（居所）又は所在地	埼玉県さいたま市中央区新都心1-1		
	氏名又は名称	国税三郎		
区 分	細 目	支 払 金 額	源 泉 徴 収 税 額	
外交員報酬		円 2,654,000	円 13,273	円 133,944
(摘要)				
支払者	住所（居所）又は所在地	川口市西川口4-6-18		
	氏名又は名称	株式会社 ○○販売 (電話)048-×××-××××		

(注) この記載例は、外交員報酬を次のように支払っている場合の例です。

- 1 1月から12月までの報酬の支払総額2,654,000円（給与等の支払金額なし）
- 2 1のうち、支払調書作成日現在において未払の報酬の合計金額250,000円